



自己点検・評価報告書
平成 26 年度・平成 27 年度

本学は、高等教育機関として全学的に点検活動、評価に取り組んでいる。本学では、部署（総務部、経理・財務部、教務学生部、通信教育事務部、図書館）、常設委員会、関連規定に基づく委員会のすべてが、年度開始当初に PDCA サイクルを用いた改善シートを作成し業務及び活動に従事し、恒常的な検証を試みている。

その部署・委員会の改善シートは、教授会において目標、計画、取り組みと成果について精査し、組織内部の質保証を試みている。この PDCA サイクルによる改善シートを用いた部署、委員会活動により、日常的に点検・評価が可能な体制が構築されている。

本学では自己点検・評価として2年度分の PDCA サイクルによる改善シートの要点をまとめており、本報告は、平成 26 年度、27 年度の自己点検・評価報告書である。

1. 本学の教育の質向上及び学習成果の獲得に向けて

(1) 平成 26 (2014) 年度

促進・強化を要する事項	取組の結果
①本学の独自科目の「保育総合演習」「卒業研究」について、本学が求める学習成果の到達について	①本学独自科目「保育総合演習」「卒業研究」の学習成果を「評価シート」、報告集などから確認し、担当教員に周知し教育活動の共通認識が図られた。
②PDCAサイクルによる授業改善シートの検証について	②PDCAサイクルによる授業改善シートの分析を客観的な数値で求めているが、学習成果の領域ではすべての改善シートの検証が同一の基準からの記述に至っていない点に課題が残っている。
③学生の授業評価アンケートに対するフィードバックについて	③学生の授業評価アンケートに対して、授業者コメント作成がFD活動のひとつに位置付けられた。授業者コメントは掲示により学生へフィードバックし学生自身の意識や自己管理を高め学びの環境を双方向で構築していく。
④公開授業を通じた相互研修について	④公開授業を行い、授業担当者教員と参観教員との意見交流会が実施され相互研修が行われた。一方でその形式について検討する必要がある。
⑤保育者としての資質向上について	⑤毎年実施している実習園からの実習評価アンケートの分析からの浮き彫りになった課題に対して、実習に向けての挨拶、身だしなみ等の態度等の指導、実施実習記録の全学的な取り組みが行われた。その結果、身だしなみ、実習態度は「よくできた」「およそできた」82%であった。「実習記録簿の適切な記述について「よく書けた」「およそ書けた」が63%であった。しかし、評価の低い「あまり書けなかった」9%、「書けていない」9%に至った。
⑥ピアノの演奏技術の向上について	⑥「ピアノ補習」の時間を設け、全教員でピアノ練習の点検や意識の向上への取り組み、その結果、実習の責任実習にピアノを取り入れる学生が増加した(10名)。
⑦保育者養成機関としての人材育成について	⑦「有意義な学生生活をおくるために」の指導内容の意義に対する学生の理解を促し、教員による服装、染髪、爪等の学生指導を行った。一部の学生に服装、マナー違反が認められたが、染髪については指導により染髪者が減少した。
⑧新入生歓迎会の企画・運営について	⑧学生実行委員が企画・運営する新入生歓迎会のアンケートを実施し、歓迎会の内容について目的を達成について高評価を得ており成果は上がっていると考えられる。

⑨編入希望者へ周知及び編入試験への支援について	⑨編入委員会を中心に学生への支援を展開し、姉妹校である近大姫路大学教育学部（指定校）に3名、関西外国語大学（一般編入）に1名が編入に至った。
改善を要する事項	取組の結果
①教育実習の実働実時間の確認と規定の作成について	①教育実習の実働実時間を保育実習と同様、週80時間の規定を作成し、実習園にも周知した。
②公欠取扱基準及び休講処置の一部及び学生便覧の諸規定について	②気象、交通機関の運休による公欠取扱基準及び休講処置を一部見直し学生に周知した。学生便覧の諸規定について審議し、大幅な整備が図られた。
③授業概要の内容、文言の統一について	③授業概要の内容について精査し、学科としての方向性を定め、科目担当者に周知した。様式に合致しない科目担当者については加筆、修正等の依頼が図られた。
④通学課程と通信教育課程を同一課程との認識から開講科目の見直しについて	④通学課程と通信教育課程を同一課程との認識から開講科目の同一化を図り、学則等の改定が行われた。（平成27年度から施行）
⑤例年、授業の最終日に実施している授業評価アンケートのスケジュールについて	⑤学生からの評価についてより妥当性・信頼性なものとし評価者の負担の軽減を図るため授業評価アンケート実施を第11回から15回の間に変更が行われた。
⑥本学のFD活動の非常勤講師への周知について	⑥非常勤講師にも本学のFD活動を周知するために情報交換会を行った。しかしながら、非常勤講師のFD活動への参加依頼には検討が必要となる。
⑦本学の給付型奨学金の該当者の評価について	⑦奨学生対象者の評価、学業成績、ボランティア活動、諸規則の遵守などの一律化を図り平等に評価する手法を試みられた。
⑧学園祭の「育ち合いのなかまづくり」と「食のフェア」の目的を果たすための環境づくりについて	⑧委託販売を少なくすることで、来場者との交流を促すとともに、「食のフェア」のタイムスケジュールの変更に着手し、62%が「適切である」と評価された。 「育ち合いなかまづくり」において4者間の学び合いが達成できたが、64%、「達成できていない」が8%であった。食のフェアは「より充実した交流がはかれるように努める」は73%、「達成できていない」が5%となった。
⑨各クラブの遠征活動等の事故等危機管理について	⑨学生の事故等の危険を回避するために、バス、タクシーを利用した遠征を確立するために、大学が経費を負担する制度が整えられた。各顧問に周知し適宜運用された。

(2) 平成 27 (2015 年) 年度

促進・強化を要する事項	取組の結果
①授業概要について	①教育改善実施 (FD) 委員会、教務委員会で取り組みにより、科目担当者の意識が向上し、授業概要は年度ごとに質的向上は図られている。しかしながら一部の内容の統一に課題も散見される。
②本学の F D 活動の非常勤講師及び新着任教員への周知について	②非常勤講師及び新着任講師を対象に教育活動改善の 3 つの柱などに対する連絡会を実施した。
③PDCA サイクルによる授業改善シートについて	③従来の様式には Excel を使用していたが、その操作が困難であるとの要望を受け、様式が Word に変更された。
改善を要する事項	取組の結果
①成績評価基準の社会通念を満たし、本学とのあり方を担保する運用について	①従前の「優」「良」「可」「不可」に「秀」を加えること、それが示す基準を明文化するとともに、教員に対して、周知徹底を行った。
②中教審、保育養成課程の法令に基づいた授業が展開されているかの確認について	②授業計画に綿密に組み込まれてはいるが、実際の授業において、どのようにその内容が取り扱われているか (学生の学習成果の獲得に結び付いているか)、厳密な整合性の確認は非常に困難であった。今後も FD 活動を推進していく。
③公開授業について	③公開授業の方式を特定科目の開講から期間内で専任教員の授業をすべて開講し、各教員が日々自己の課題だと考えている内容の解決の糸口の得られることが期待できる方式に変更された。このことにより、関心ある授業の参観により指導法の研修等ができ自己研鑽の機会につなげることが可能となった。しかしながら、相互研修の目的が授業担当者の批判に繋がりがかねない傾向が認められ、原点に戻って参観授業のあり方を周知する必要がある。参観者のあり方、ルールが検討された。
④保育者としての資質向上について	④毎年実施している実習園からの実習評価アンケートの分析から浮き彫りになった課題に対して、実習に向けての挨拶、身だしなみ、態度等の指導、また実習記録の記述方法についての指導が全学的な取り組みとして継続された。その結果、挨拶、身だしなみ、実習態度については「できなかった」「およそできなかった」が 10%、実習記録の適切な記述については「適切に書けなかった」が 10%であり、今後引き続き指導を強化していくことが課題である。

⑤保育者養成機関としての人材育成について	⑤多くの学生は大学の教育方針から行われる指導の意義を理解し、「有意義な学生生活をおくるために」を守った学びの時間を過ごしている。学生指導の対象となる学生は大幅に減少したが、2年生の成人式後の染髪が例年以上に増加してしまった。
⑥奨学生の意識の啓発について	⑥奨学生である学生の意識を高め、学生自身が目標を設定し自律的に行動できるよう「奨学生の自己目標及び行動計画」様式を導入し、その内容を担任や奨学生委員が確認し半期ごとに学生と面談を行うように計画された。

3) 平成 28 (2016) 年度以降の課題事項及び改善計画

改善を要する課題事項	改善計画
①教育の質向上に向けた取り組みが行われており、教員の意識改革は確実に進んでいる。しかしながら、科目担当者による PDCA サイクルによる授業改善 C シートの検証における記載する数値の範囲、授業概要の項目に対する記述（文言）の統一など、細かな部分が整い切れていない現状がある。授業公開の相互研修の意味合いや学生による授業アンケートに対する意識や捉え方も、教員集団として完全に同じだとは言いきれない。	①教育の質向上に向けた取り組みは、教務委員会や教育改善実施（FD）委員会に代表されるが、様々な委員会にわたり行われている。教員一人ひとりの教える者として意識改革や求められている事項の意味合いを自ら再考する機会を、学科として説明会や研修会を企画し実施していく。

2. 高等教育機関としての人的物理的な体制・環境整備について

(1) 平成 26 (2014) 年度

促進・強化要する事項	取組の結果
①図書館利用者（学生、教職員）へのアンケートについて	①利用者の視点に立った図書館づくりを掲げ、取り組みが行われた。館員の対応について、「親切である」は学生 90%、教職員 67%、「話しやすい」が学生 81%、教職員 55%、「対応がてきぱきしている」が学生 78%、教職員 55%となった。
②教職員、学生を含めたセキュリティポリシーの作成について	②SD委員会と連携し、情報セキュリティポリシー作成に伴うコミュニケーションツールの利用実態を把握するアンケート調査の準備が進められた。
③火災・自然災害に対する体制の強化について	③自衛消防隊組織を編成し各係の役割を組織図等で再編し、防災訓練が行われた。火災・自然災害等に備えた非常食・備品等の備蓄品、場所がなされた。
④学生及び教職員に個人情報の適正な取り扱いについて	④個人情報保護委員会により、学生集会や教職員連絡会で学生及び教職員に個人情報の適正な取り扱いの周知が行われた。
⑤心身の健康の増進と支援について	⑤利用しやすい日時にカウンセラーによる学生相談室を開設し、相談室の利用を学生、教職員にも奨励した。「衛生委員会便り」を年 2 回発行し、健康啓発に努め、教職員のストレスチェックを実施し、結果の把握、分析に着手した。
改善を要する事項	取組の結果
①指定校推薦について	①但馬地域のすべての高等学校に指定校推薦枠を整えた結果 4 名の入学者となった。
②オープンキャンパスについて	②参加者の視点に立った本学（保育者養成）の魅力が伝えられるオープンキャンパスの運営を合言葉に、来場者と在校生との交流が行えるように変更された。オープンキャンパス参加者アンケート結果 109 名中 88%が肯定的な評価であった。参加者、139 名（本人 97 名、保護者、引率者 42 名）であった。
③入学試験について	③面接試験の実施方法（質問事項等）と時事問題の評価基準の公平性をより担保するために、担当する者の共通理解を高め実施できるように徹底して取り組みを行った。その結果、複数面接担当者の実施方法の共通理解が図られ、実際の面接場面においても公平性が担保された。

④教職員研修会について	④職務改善（SD）委員会と教育改善（FD）委員会との協働による教学支援・学生支援研修会が開催された。 職場研修会及び分野別研修において、業務研修、新入職員研修、ビジネスマナー研修、AED講習、ソーシャルネットワーク研修が行われた。
⑤ハラスメント防止について	⑤「ハラスメント防止のためのガイドライン」の配付にまで至らなかった。ハラスメントの窓口相談件数は0であった。
⑥通信教育課程の教育の質向上及び環境整備について	⑥年3回の本校スクーリングで授業評価アンケートを実施し、授業内容、教室環境等の評価を分析し、教員にフィードバックし、機関誌「豊梅」に掲載する情報を精査した。 巡回相談会の一人当たりの相談時間を充実させる取組を行った。こども学科、社会福祉士養成通信課程ともに、利便性の高い大阪エリア等でのスクーリング実施、巡回相談会場設置など再配置が行われた。ホームページをリニューアルし、学生にとって必要な情報の掲載に努めた。
⑦学園例規集について	⑦学園例規集の見直しを行い、必要な改定が行われた。

(2) 平成 27 (2015 年) 年度

促進・強化を要する事項	取組の結果
①指定校推薦枠について	①2年目になる但馬地域の指定校推薦枠による入学者が20名となった。
②ハラスメント防止について	②「ハラスメント防止のためのガイドライン」を全教職員・学生に配付し防止の啓発に努めた。
③2つの公開講座による地域貢献の促進について	③地域の方々をお迎えするおもてなしについて、公開講座委員会でスタッフの礼儀作法や環境整備について、これまで寄せられた声から再確認した。 音楽リサイタルでは、スタッフの対応が「良かった」72%（前年62%）、「普通」21%（前年32%）と評価が上がった。演奏を含めた総合評価も「非常に良かった」47%、「良かった」43%と90%が肯定的な評価となった。パソコン講座においても、担当講師の指導について、「分かりやすかった」という回答がワード86%、エクセル65%、内容もワード61%、エクセル86%が「適切であった」の評価となり、補助スタッフの学生に対し96%「役に立った」の回答が得られた。
④教育情報公開について	④本年度の授業概要、教員の科目担当、業績、学生数、などの情報等についてホームページ上で更新した。教職課程科目を担当する非常勤講師の情報を追加した。
⑤個人情報の適切な取り扱いについて	⑤在学生・保護者・保証人などの個人情報を適正に取り扱うことを徹底するとともに、個人情報に関する相談・苦情、開示・訂正・請求などを寄せる窓口を明示した。
改善を要する事項	取組の結果
①高校訪問（学生募集）時の伝達留意事項について	①高校訪問を担当する教員の伝えるべき事柄等、訪問に際する理解を図り、教員の共通認識が深められた。

3) 平成 28 (2016) 年度以降の課題事項及び改善計画

改善を要する課題事項	改善計画
<p>①高等教育機関として学生が学び育ち合うため集団作りという視点から、充足率を高めることは重大な課題であると言える。そして、但馬地域でも保育者不足は例外ではない。但馬地域の高等学校の学級数の減少や家計状況など取り巻く環境を鑑みても、新たな試みが必要不可欠となる。</p>	<p>①本学の強みや特徴、魅力は、一体何であるかを全学的に再考した上で、高等学校訪問やガイダンスなどに臨む必要がある。但馬地区を取り巻く状況からも、入試対策・学生募集委員会を中心に、アドミッションポリシーから新たな入試区分の創設も視野に入れた改善を進めていく。</p>